

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2019年8月29日 (木)

NO. 991号

本号3頁

「安倍政権は韓国敵視をあおるな、日韓友好！」、 対韓輸出規制拡大反対！等、官邸前緊急行動

日本政府が28日に、韓国を輸出管理の優遇対象となる「ホワイト国」から除外する政令を施行しました。それに対する抗議の緊急集会が27日夜、首相官邸前で行われました。集会名は「対韓輸出規制拡大反対！韓国除外『政令』撤回！安倍政権は『徴用工問題』の報復やめろ！8・27官邸前緊急行動」で、総がかり行動実行委員会と「3・1朝鮮独立運動100周年キャンペーン」の共催。350人の参加者は、「徴用工」問題に対する報復外交をする安倍政権を批判し、「安倍政権は韓国敵視をあおるな」「日本政府は歴史に向きあえ」等と声をあげました。



主催者を代表して、小田川義和総がかり行動実行委共同代表があいさつ。懲罰的に外交を行う安倍政権の姿勢の大本には、「過去の侵略戦争と植民地支配を正当化しようとする、誤った歴史観があります」と指摘。圧力に圧力を重ねるのではなく、対話での解決を求めると同時に、「安倍政権を退陣に追い込むことが、日本の市民の責任です」と訴えました。

次に、「強制動員問題解決と過去清算のための共同行動」、「慰安婦」問題解決全国行動などの代表が発言しました。「強制動員問題解決共同行動」事務局長の矢野秀喜さんは、安倍政権は過去の歴史に向きあうべきだと訴え、「市民の力で、この問題に決着をつけたい」と力を込めました。

韓国からは、市民団体と労働組合などでつくる「安倍糾弾市民行動」や、市民社会団体連帯会議などのメンバーら3名が参加。日韓関係を悪くしているのは、安倍政権をはじめとする政治家だと批判し、「日韓市民は両国関係の改善へ手を携えてたたかっていきましょう」と語りました。

最後に、高田健総がかり行動実行委共同代表が、日朝ピョンヤン宣言17周年『朝鮮半島と日本に非核・平和の確立を！日朝国交正常化交渉の再開を！』9月17日(火)18:30～文京区民センターを成功させよう等と、当面の行動提起を行いました。

埼玉知事選挙

市民と野党の共闘、野党共闘で大野氏が当選！

埼玉県知事選は25日投開票され、立憲民主、国民民主、共産、社民各党の県組織などが支援する元参院議員、大野元裕氏(55)が、自民、公明が推薦するスポーツライター、青島健太氏(61)ら4人を破り初当選しました。投票率は32・31%で前回26・63%より6ポイント上回りました。

各社は、「事実上の与野党一騎打ちを制し、今後の野党共闘に弾みが付きそうだ」と報じています。

参院選後初の知事選はいずれも新人の大野氏、青島氏による接戦となり、各党幹部らが応援に入りました。大野氏は4期16年で退任する上田清司知事の支援を受け、県政の継承を掲げながら政党色を薄めた選挙戦を展開。県内医師数の増加や埼玉高速鉄道の延伸なども訴え、支持を



広げました。

この間、市民の共同、市民と野党の共闘で、15の選挙区ごとに市民連合・市民連絡会が結成され、選挙区ごとに安倍改憲反対の3000万署名が取り組まれ、そして、1万人以上参加した県民集会が何度も開催されてきました。その共同の力がこの度の知事選挙でも発揮されました。

一方、上田知事と対立する自民は、16年ぶりの県政与党の奪還を目指して青島氏を擁立。元プロ野球選手の知名度を生かし、県政刷新を訴えたが及びませんでした。

参院選後初の知事選挙で、厳しい埼玉県民の審判を浴びた自民党は…

自民党の甘利明選対委員長は25日夜、党本部で記者団の質問に答え、埼玉県知事選で与党推薦候補が敗れたことについて「わが党支持者に浸透し切れなかった。努力不足を反省したい」と述べました。甘利氏は、10月の参院埼玉選挙区補選への対応に関し「まず敗因を分析し、執行部全体で検討し対応したい。結論を出すのに時間がかかると思う」と語りました。

一方、主要野党が支援した大野元裕氏の勝利を受け、国民民主党の玉木雄一郎代表はコメントを発表し、「与野党激突の戦いを制したことは、次期衆院選に大きな展望を切り開くものだ」と強調。共産党の小池晃書記局長も、取材に対し「この流れを次の衆院選に向けてさらに本格的なものにしていきたい」と語りました。

核兵器も基地も原発もない平和な未来を子らに

日本母親大会開催

65年前のビキニ事件をきっかけに始まり、草の根から行動し、母親・女性の願いを結集する第65回日本母親大会が、その原点の地・静岡の2会場で25日から2日間で、のべ9000人が参加して開催されました。「核兵器も基地も原発もない平和で明るい未来を子どもたちに手渡そう」との大会アピールを採択しました。

主催者を代表して全労連副議長で同大会代表委員の長尾ゆりさんがあいさつし、9条改憲に執念を燃やす安倍政権を批判し、9条を守り抜くことを呼びかけました。

そして、「49歳以下の世代、若者たちのアピール」「いのち・くらしを守れ」などをテーマにした「今日の運動」、第五福竜丸の無線長・久保山愛吉さん家族の反核の思いを引き継ぐ「静岡のたたかい」が紹介されました。

記念講演は原水爆禁止世界大会起草委員長の富田宏治さん（関西学院大学法学部教授）が、「ビキニ被災から65年 核兵器のない平和な未来を～人間の尊厳を築く反核運動」と題して記念講演しました。核兵器廃絶と平和を訴えてきた母親運動と原水爆禁止運動が深く結びつき2017年に核兵器禁止条約を手に入れたとして、「被爆75年、2020年を核兵器の禁止から廃絶への転機の年にしよう」と呼びかけました。

もうひとつの全体会では、女性差別撤廃条約アクション共同代表の浅倉むつ子早稲田大学名誉教授が「女性差別撤廃条約採択40年—ジェンダー平等の実現めざして」と題して記念講演しました。「今日の運動」として、「ジェンダー平等を求め、声をあげ、行動する女性たちのたたかい」が紹介されました。

「核兵器も基地も原発もない平和で明るい未来を子どもたちに手渡そう」との大会アピールを採択しました。来年の大会は、九州・沖縄ブロックで話し合い中との報告がありました。

各地のとくみ

長野 暗黒政治を許さない！治安維持法同盟長野県本部が宣伝行動

治安維持法同盟長野県本部は21日、長野駅前前で「終戦74年、再び戦争と暗黒政治は許さない」の横断幕を掲げ宣伝しました。11人が参加し、「9条改憲ストップ」のチラシを配布しました。

県本部副会長の轟肇さんが、毎年8月に宣伝していることを紹介し、「国賠同盟の先輩方はいわゆる十五年戦争に命をかけて反対した」と述べ、「戦争のない日本、世界にしていきたい」と訴えました。

宣伝は、国民救援会長野県本部と合同で実施し、救援会役員もスピーチしました。参加者は高校生などにもチラシを配布しながら、平和への思いをアピールしました。

婦団連 朝鮮半島の平和構築へ女性のつどい

日本婦人団体連合会（婦団連）は21日夜、1967年からの歴史をもつ「戦争はごめん 女性のつどい」を東京都内で開きました。

柴田真佐子会長が、主催者あいさつ。7月の参院選について、ジェンダー平等を共通政策の一つに掲げた「市民と野党の共闘」が大きな力となり、改憲勢力の3分の2議席確保を阻止したことは重要だと語りました。

日韓関係を緊迫させ、「改憲議論を加速させる」と執念を示している安倍政権の動きについて、国会議員会館前でおこなわれた「19日行動」のスローガンでは「韓国敵視を煽（あお）るな、自衛隊はイランに行くな」が掲げられたと報告。「『3000万人署名』をはじめ、平和の運動をさらに広めていこう」と訴えました。

日本AALA連帯委員会常任理事の高林敏之さんが「朝鮮半島の平和プロセスと日本」と題して講演。日本が朝鮮戦争に加担した歴史を学ぶ必要性を語り、現在も米軍横田基地に置かれている朝鮮「国連軍後方司令部」について解説しました。「この国連軍後方体制からの脱却なくして平和主義も日米安保条約の撤廃ありません。朝鮮戦争の歴史を知ることが、右翼ナショナリズムがあおる『嫌韓』や朝鮮人差別を容認する空気に対抗し、朝鮮半島の平和プロセスを後押しする力にもなる」と語りました。

岐阜 「平和っていいね」、こども平和ひろばを開催

岐阜市で24日、「平和っていいね」と題した「こども平和ひろば」（3回目）が開かれ、昨年を上回る親子ら300人以上が参加しました。主催者は岐阜県被爆者の会、岐阜県学校生協など12団体で構成する岐阜県ピースアクション連絡会・実行委員会。岐阜市、市教育委員会が後援。

生活協同組合コープぎふの吉岡俊雄専務理事（59）が「平和の大切さ、戦争の悲惨さを感じてもらえる一日になるよう、親子で語り合い、楽しんでください」とあいさつしました。

オープニングでは、「ぎふ早田太鼓の会」のメンバー5人（小中生）が「和太鼓」を演奏、地元フォークシンガーらが参加者全員と「世界中のこどもたちが」など子どもの歌をギター演奏で歌いました。

「昔あそび体験」コーナーでは、メンコやコマ回しなどおとなもこどももワイワイガヤガヤ、「だるま落とし1回できたよ」と自慢する子も。「おりがみ、しおりを作ろう」コーナーでは、3世代家族の参加もあり、スタッフの赤塚さとみさん（61）は「親子で話しあいながら作ること、これが平和だよということを感じてほしい」と語りました。

岐阜空襲を体験した上野英美さん（82）は、当時8歳の時の光景を紙芝居にして朗読、親子らが真剣に聞いていました。

ネットを見て初めて参加した親子の母親（34）は「子どもの遊びだけと思ったら、平和や戦争もあり、大変勉強になりました。来てよかったです」と語っていました。

神奈川 スタンディング1500日連続達成！

茅ヶ崎市駅前でも2003年から取り組まれている「9の日スタンディング★ちがさき」が、23日の行動で15年7月16日から数えて連続1500日目を達成しました。

この活動は、市内在住の岡本棟守さん（76）が、自衛隊のイラク派兵に反対する意思表示として03年12月29日に始めたもの。当初は憲法9条にちなんで毎月「9」のつく日に取り組んで来ましたが、安保健法（戦争法）廃棄を求めるたたかひのなかで日数を増やし、15年7月16日からは、お盆も年末年始も毎日立ち続けてきました。

23日の行動には18人が参加。スタンディング後に岡本さんが、1500日間の参加者は累計1万8967人、1日平均12.84人で、03年からの累計では2万4744人だったと発表し、お菓子で祝杯をあげました。

岡本さんは、「私たちは4年2ヵ月にわたって野党共闘を毎日支え続けたと自負し、全国の仲間と頑張ってきたと思っている」と胸を張り、「市民運動は芽を吹いて、これからも全国にどんどん広がっていくでしょう」と語りました。